

平成23年度事業報告

事業報告

1. 平成23年度優秀業績の表彰

平成23年度優秀業績については慎重に検討された結果、

富岡 治明氏（島根大学医学部微生物・免疫学講座（微生物学ユニット））

「Development of new antituberculous drugs based on bacterial virulence factors interfering with host cytokine networks」

（Journal of Infection and Chemotherapy Vol. 17, p302-317）

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

丸山 貴也氏（独立行政法人国立病院機構三重病院呼吸器内科）他11名

「Efficacy of 23-valent pneumococcal vaccine in preventing pneumonia and improving survival in nursing home residents: double blind, randomized and placebo controlled trial」

（British Medical Journal, BMJ2010; 340:c1004）

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成23年4月21日～22日、ザ・プリンス パークタワー東京において第85回学術講演会を小野寺昭一 会長のもとに開催した。

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| a | 会員の業績研究発表 | ポスター：374題 |
| b | 会長講演 | 1題 |
| | わが国における性感染症サーベイランスから見てきたもの | 司会：神戸赤十字病院 守殿 貞夫
東京慈恵会医科大学感染制御部 小野寺昭一 |
| c | 特別講演 | 4題 |
| 1 | ナノバクテリアその正体と自己増殖のメカニズムー | 司会：聖マリアンナ医科大学 嶋田甚五郎
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 公文 裕巳 |
| 2 | 我が国における性感染症の現状と課題 | 司会：東京慈恵会医科大学感染制御部 小野寺昭一
性の健康医学財団 熊本 悦明 |
| 1) | 微小細菌感染症・クラミジア感染症を中心に | 帝京大学医学部附属溝口病院産婦人科 川名 尚 |
| 2) | 性器ヘルペスと尖圭コンジローマ | 司会：長崎大学病院 河野 茂
長崎大学 松本 慶蔵 |
| 3 | 感染症の過去、現在、未来 | 司会：東邦大学医学部微生物・感染症学講座 山口 恵三
国立感染症研究所細菌第二部 荒川 宜親 |
| 4 | 新型の多剤耐性グラム陰性桿菌の特長と動向 | 2題 |
| d | 招請講演 | 司会：東京慈恵会医科大学 柴 孝也
WHO Global Influenza Program 進藤奈邦子 |
| 1 | パンデミックインフルエンザA (H1N1) 2009の教訓 | 司会：東京大学医学研究所先端医療研究センター 岩本 愛吉
大阪大学・WPI 免疫学フロンティア研究センター 審良 静男 |
| 2 | 自然免疫の最近の進歩 | 5題 |
| e | 教育講演 | 司会：北里大学北里生命科学研究所特別研究部門 砂川 慶介
原小児科 原 三千丸 |
| 1 | 急性気道感染症の迅速診断 | 司会：東京通信病院 木村 哲
国立感染症研究所ウイルス第二部 相崎 英樹 |
| 2 | C型肝炎ウイルス研究の進歩と展望 | 司会：国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦
国立病院機構福岡病院 岡田 賢司 |
| 3 | 大人へ向かっていく小児感染症ー百日咳を中心にー | 司会：島根大学医学部微生物免疫学 富岡 治明
東京慈恵会医科大学細菌学講座 水之江義充 |
| 4 | 細菌の形成するバイオフィルム | 司会：滋賀県立成人病センター 笹田 昌孝
日本医学会利益相反委員会 曾根 三郎 |
| 5 | 医学研究におけるCOIマネージメント | 4題 |
| f | ベーシックレクチャー | 司会：東邦大学大学院先端医学研究センター 宮崎 修一
聖マリアンナ医科大学病院感染制御部、聖マリアンナ医科大学微生物学 竹村 弘 |
| 1 | 感染症の基礎知識 | 司会：石心会狭山病院小児科 豊永 義清
千葉大学医学部附属病院小児科 石和田稔彦 |
| 2 | 感染症の予防 | 司会：東京都健康長寿医療センター臨床検査科 稲松 孝思
東京慈恵会医科大学感染制御部 堀野 哲也 |
| 3 | 感染症の診断 | 司会：東京慈恵会医科大学感染制御部 堀 誠治 |
| 4 | 感染症の治療 | |

g シンポジウム

1 特殊環境（病態）下の多剤耐性菌感染症の治療と限界

- 1) 栄養管理と感染症
- 2) VAP
- 3) CAUTI（尿路カテーテル関連感染）
- 4) がん緩和医療と感染症
- 5) がん化学療法と感染症

司会：産業医科大学泌尿器科 松本 哲朗
 東邦大学医療センター大橋病院外科・がんセンター 草地 信也
 帝京大学医学部附属病院外科 福島 亮治
 大阪大学医学部附属病院感染制御部 朝野 和典
 産業医科大学泌尿器科 濱砂 良一
 東邦大学医療センター大橋病院緩和ケアチーム 中村 陽一
 東京慈恵会医科大学腫瘍・血液内科 相羽 恵介
 司会：奈良県立医科大学感染症センター 三笠 桂一

2 呼吸器感染症の検査診断法の再検討

- 1) 喀痰検査・迅速検査
- 2) 呼吸器感染症診断におけるCTガイド下肺生検・穿刺
- 3) 経皮肺穿刺による呼吸器感染症の起炎微生物の探索
- 4) 経気管吸引法（TTA）
- 5) 気管支内視鏡検査

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科） 泉川 公一
 国家公務員共済組合連合会虎の門病院呼吸器センター内科 宇留賀公紀
 琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学講座 比嘉 太
 奈良県立医科大学感染症センター 前田 光一
 長野県立須坂病院感染症科・呼吸器内科 山崎 善隆

3 基礎と臨床の融合

司会：岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野 渡邊 邦友
 千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野 亀井 克彦
 岐阜大学大学院医学系研究科病原体制御学分野 大楠 清文

- 1) 感染症診断における基礎解析技術の動向とその臨床への応用
- 2) Variable Number Tandem Repeats（VNTR）法による結核の疫学

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター臨床研究部/感染症センター 松本 智成
 国立感染症研究所ウイルス第一部 高崎 智彦

- 3) デング熱の基礎と臨床
- 4) マラリアの臨床応用を目指した基礎研究
- 5) 一類感染症への対応を視野に入れた輸入マラリアの臨床研究
- 6) アスペルギルス症の成立メカニズム解明とその応用

国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部 狩野 繁之
 国立国際医療研究センター国際疾病センター 加藤 康幸
 千葉大学真菌医学研究センター 渡辺 哲

4 尿路性器感染症ガイドライン

司会：神戸大学医学部附属病院手術部・感染制御部 荒川 創一
 東京慈恵会医科大学青戸病院泌尿器科 清田 浩

- 1) 膀胱炎
- 2) 腎盂腎炎
- 3) 前立腺炎・精巣上体炎
- 4) 非淋菌性尿道炎・尖圭コンジローマ
- 5) 淋菌感染症、性器ヘルペス

兵庫医科大学泌尿器科 山本 新吾
 藤田保健衛生大学腎泌尿器外科 石川 清仁
 神戸大学大学院医学研究科外科系講座腎泌尿器科学分野 田中 一志
 札幌医科大学医学部泌尿器科 高橋 聡
 産業医科大学泌尿器科 濱砂 良一

5 多施設感染症臨床研究推進の基盤作り

司会：京都大学医学部附属病院検査部・感染制御部 一山 智
 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 館田 一博

- 1) 大学病院・感染制御部としての院内感染症の多施設研究
- 2) 地域ネットワークの活用と今後の展望
- 3) 関西地域における多施設共同手術部位感染サーベイランスおよび臨床研究の経験
- 4) 現場でのResearch question発掘から多施設共同研究にどうつなげていくか？—血液培養に関する多施設共同研究を例に—

京都大学医学部附属病院検査部・感染制御部 高倉 俊二
 長崎大学病院検査部 柳原 克紀
 市立豊中病院外科 清水 潤三

- 5) 感染症臨床研究推進のための組織戦略

東京医科歯科大学医学部附属病院臨床試験管理センター感染対策室 小池 竜司

6 HIV 治療ガイドラインを受け、現場では治療薬をどう選択しているのか？

司会：東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 藤井 毅
 国立国際医療研究センター病院エイズ治療研究開発センター 照屋 勝治

- 1) ガイドラインに反映されるHIV治療の進歩と変遷
- 2) ガイドラインで推奨されている薬剤について—その使用法、選択のポイント—
- 3) 懸念されるHIV療法の問題点—長期治療の問題点—
- 4) 日常診療で遭遇するHIV関連疾患を見逃さない—合併疾患がある場合の抗HIV療法—

独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 塚田 訓久
 横浜市立市民病院感染症内科 立川 夏夫
 名古屋医療センターエイズ治療開発センター 横幕 能行

7 中枢神経感染症の実際

- 1) ウイルス性髄膜炎
- 2) 細菌性髄膜炎（小児）について
- 3) 細菌性髄膜炎（成人）の診断と治療
- 4) 急性脳症と臓器障害—インフルエンザ脳症を中心に—
- 5) HTLV-1関連脊髄症（HAM）

司会：東京都立墨東病院感染症科 大西 健児
 宮崎大学医学部内科学講座免疫感染病態学分野 岡山 昭彦
 石井記念愛染園付属愛染橋病院小児科 塩見 正司
 旭川厚生病院小児科 坂田 宏
 日本大学医学部内科学系神経内科学分野 亀井 聡
 宮崎大学医学部附属病院小児科 布井 博幸

鹿児島大学医歯学総合研究科難治ウイルス病態制御研究センター分子病理病態研究分野 出雲 周二

h 病院感染対策シンポジウム

1 感染経路別対策の実際

- 1) 発疹性ウイルス疾患対策の実際（麻疹、風疹、水痘）
- 2) 腸管感染症対策の実際（クロストリジウム・ディフィシル、ウイルス性胃腸炎）
- 3) 呼吸器感染症対策の実際
- 4) 多剤耐性菌対策の実際

司会：東邦大学医療センター佐倉病院 辻 明良
 慶應義塾大学医学部感染制御センター 岩田 敏
 慶應義塾大学病院感染制御センター 新庄 正宜
 東邦大学医療センター大森病院感染管理部 吉澤 定子
 慶應義塾大学病院感染制御センター 長谷川直樹
 順天堂大学大学院感染制御科学 堀 賢

5) 感染経路別対策を念頭においた環境整備の実際	東京女子医科大学感染対策部	大友 陽子
2 デバイス感染対策	司会：川崎医科大学小児科	尾内 一信
1) 内視鏡・気管支鏡	県西部浜松医療センター感染症科	矢野 邦夫
2) 血管内カテーテル・ポート	名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部	八木 哲也
3) 尿道留置カテーテル	京都府立医科大学附属病院感染対策部	藤田 直久
4) シングルユース器材 (Single Use Device, SUD)	鳥取大学医学部附属病院感染制御部	堀井 俊伸
3 医療関連感染 (VAP,SSI) 対策	公立大学法人横浜市立大学附属病院感染制御部	満田 年宏
1) VAP予防のバンドル	司会：兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
2) VAP管理の実際 (救命救急センターでの取り組み)	京都府立医科大学集中治療部・感染対策部	志馬 伸朗
3) VAPの診断と治療	国立陶生病院救急部/愛知医科大学病院高度救命救急センター	長谷川隆一
4) 今行っている標準的SSI対策	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター	齋藤 伸行
5) 術後患者の血糖管理	聖マリアンナ医科大学救急医学	藤谷 茂樹
6) 術後感染予防抗菌薬	大阪市立大学肝胆膵外科	久保 正二
7) PCRによるMRSA迅速検査を用いた術後感染予防対策	山中温泉医療センター外科	大村 健二
4 薬剤耐性菌のアウトブレイクへの対応	国立大学法人三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻病態修復医学講座先端的外科技術開発学	小林美奈子
1) アウトブレイクの対応	兵庫医科大学感染制御部	高橋 佳子
2) 多剤耐性アシネトバクター (MRAB) 集団発生事例の報告ならびに対応について	司会：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学	賀来 満夫
3) MDRPのアウトブレイクへの対応	東京慈恵医科大学病院感染制御部	吉田 正樹
4) 基質拡張型β-ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌によるアウトブレイクから学んだこと	自治医科大学附属病院・感染制御部	森澤 雄司
i 緊急セミナー	帝京大学医学部附属病院感染制御部	松永 直久
鳥インフルエンザ	東京医科大学微生物学講座	松本 哲哉
1) 高病原性鳥インフルエンザウイルス対策	愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	三嶋 廣繁
2) ヒトでの鳥インフルエンザ対策	司会：東京慈恵会医科大学	小野寺昭一
j 公開討論	国立感染症研究所感染症情報センター	岡部 信彦
「多剤耐性アシネトバクターの基準の作成と使い分け」日本感染症学会インフェクションコントロール委員会企画	北海道大学院獣医学研究科	喜田 宏
1) サーベイランスのための基準	国立感染症研究所感染症情報センター	谷口 清州
2) 治療 (化学療法) のための基準		1 題
3) 院内感染対策のための基準		
k 「症例から学ぶ感染症セミナー」	司会：東京慈恵会医科大学青戸病院泌尿器科	清田 浩
1) 真菌感染症の感染管理	東京医科大学微生物学講座・東京医科大学病院感染制御部	松本 哲哉
2) わが国のインフルエンザ対策を総括し、今後を展望する～抗インフルエンザ薬の適応と使い分けを含めて～	国立感染症研究所細菌第二部	荒川 宣親
3) 呼吸器感染症診療の最新知見ーインフルエンザから医療・介護関連肺炎までー	愛知医科大学病院感染制御部	三嶋 廣繁
4) HPVの免疫回避機構から考えた癌の予防と治療	東京医科大学微生物学講座	松本 哲哉
5) 誤嚥性肺炎とレスピラトリーキノロンーNHCAP誤嚥性肺炎の入院回避のカギー	司会：東邦大学医学部微生物・感染症学講座	館田 一博
6) Sepsis救命治療の最前線	自治医科大学附属病院・感染制御部	森澤 雄司
1) Surviving Sepsis Campaign Guidelineとその後		1 6 題
2) Sepsis患者における抗凝固療法～SSCGの問題点～	司会：長崎大学病院	河野 茂
7) Update on HIV Treatment	自治医科大学附属さいたま医療センター	神田 善伸
8) 小児呼吸器感染症の治療戦略におけるオラベネムの位置づけ	司会：杏林大学医学部第1内科	後藤 元
9) 是非、実践したい手術部位感染 (SSI) 対策	東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
1) 消化器外科におけるSSI対策	司会：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学	賀来 満夫
2) 心臓血管外科におけるSSI対策	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	関 雅文
	司会：産業医科大学泌尿器科	松本 哲朗
	金沢医科大学産科婦人科学	笹川 寿之
	司会：奈良県立医科大学附属病院感染症センター	三笠 桂一
	独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科	寺本 信嗣
	司会：宮崎大学医学部内科学講座免疫感染病態学	岡山 昭彦
	兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
	兵庫医科大学救急・災害医学講座	小谷 穰治
	司会：独立行政法人国立医療研究センターエイズ治療・研究開発センター	菊池 嘉
	Harvard Medical School	Paul E.Sax
	司会：川崎医科大学医学部小児科学講座	尾内 一信
	旭川厚生病院小児科	坂田 宏
	司会：兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻病態修復医学講座先端的外科技術開発学	小林美奈子
	熊本赤十字病院心臓血管外科	小柳 俊哉

- 10 *Candida*感染症治療の現状と課題 司会：千葉大学真菌医学研究センター病原真菌研究部門 亀井 克彦
 広島大学病院感染症科 大毛 宏喜
- 11 小児および成人の肺炎球菌感染症とワクチンによる予防 司会：京都大学医学部臨床病態検査学 一山 智
 国立感染症研究所細菌第一部 和田 昭仁
- 12 日本の予防接種制度の転換期を向えて—米国の予防接種から学ぶこと— 司会：国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦
 国立成育医療研究センター感染症科 齋藤 昭彦
- 13 外来治療における経口ニューキノロン系薬の位置づけ 司会：昭和大学医学部臨床感染症学講座 二木 芳人
 愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学 三嶋 廣繁
- 14 MICで語れない気道感染症治療 司会：信楽園病院内科 青木 信樹
 産業医科大学呼吸器内科学 迎 寛
- 15 HIV感染症における早期治療介入の重要性～ウイルスの変異を見据えて～ 司会：東京通信病院 木村 哲
 独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 岡 慎一
- 16 *Clostridium difficile*による医療関連感染と感染管理 司会：岐阜大学生命科学総合研究支援センター嫌気性菌研究分野 渡邊 邦友
 国立感染症研究所細菌第二部 加藤 はる

m サテライトセミナー

- 1 VPDにおける課題と将来の展望 司会：長崎大学 松本 慶蔵
 1) 23価肺炎球菌ワクチンと感染症の将来 東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 渡辺 彰
 2) 米国におけるロタウイルス胃腸炎の現状と対策 国立成育医療研究センター感染症科 齋藤 昭彦
 3) ヒトパピローマウイルス (HPV) 疾患の最近の話題 JR札幌病院産婦人科 寒河 江悟
- 2 気道感染における防御機構とその制御 司会：大分大学医学部 総合内科学第二講座 門田 淳一
 1) L-carbocysteineによるウイルス感染制御と抗炎症作用 東北大学未来医工学治療開発センター臨床応用部門 安田 浩康
 2) COPDの増悪と予防 信州大学医学部保健学科生態情報検査学講座 藤本 圭作
- 3 世界の感染症事情 司会：東京女子医科大学 感染対策部感染症科 戸塚 恭一
 1) 世界の耐性菌感染症事情 東京医科大学微生物学講座 松本 哲哉
 2) 注目されるウイルス感染症とその対策 川崎医科大学小児科学講座 中野 貴司
- 4 HIV感染症・エイズ治療の最前線 ～最新ガイドラインと臨床の現状～ 司会：独立行政法人国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター 岡 慎一
 1) わかりやすい最新の治療ガイドライン がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 味澤 篤
 2) 医療現場における診断と治療 東京医科大学臨床検査医学講座 山元 泰之
- 5 呼吸器感染症における迅速診断法の新展開—リボゾーム蛋白をターゲットとする診断法の可能性— 司会：慶応義塾大学医学部 感染制御センター 岩田 敏
 1) 小児呼吸器感染症の原因病原体について 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 石和田稔彦
 2) リボゾーム蛋白をターゲットとする新しい診断法 東邦大学医学部微生物・感染症学講座 館田 一博

3. 雑誌刊行

- 1) 感染症学雑誌
 85巻1号より逐次刊行した。
 地方会学術集会プログラムを掲載した。
 科学技術情報発信・流通システム (J-STAGE) のアーカイブサイトで創刊号より電子化され公開された。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 Vol.17, No.1より逐次刊行した。
 Vol.17, No.1より1号当りの頁数を増とした。

4. 地方会

- ・第59回東日本地方会学術集会は、平成23年10月26日～28日の3日間、武田博明会長のもとで第58回日本化学療法学会東日本支部総会 (平潟洋一会長) と合同で山形市・ホテルメトロポリタン山形、山形テルサで行われた。
 特別講演 2題、メモリアルセミナー 1題、合同シンポジウム 2題、シンポジウム 5題、ワークショップ 3題、
 教育講演 8題、みて考える、感染症セミナー～Photo Quiz～ 1題、教育セミナー 18題、ICD講習会 1題
 一般演題 152題
 参加人数 907名
- ・第54回中日本地方会学術集会は、平成23年11月24日～26日の3日間、三笠桂一会長のもとで第59回日本化学療法学会西日本支部総会 (喜多英二会長) と同時期で奈良市・奈良県新公会堂で行われた。
 特別講演 2題、教育講演 13題、シンポジウム 3題、新薬シンポジウム 1題、ワークショップ 3題、特別報告 1題、
 特別企画 2題、Up to dateセミナー 12題、ICD講習会 1題
 一般演題 100題
 参加人数 1307名

- ・第81回西日本地方会学術集会は、平成23年10月6日～8日の3日間、松本哲朗会長のもとで北九州市・北九州国際会議場、ホテルニュータガワで行われた。

特別講演 3題、教育講演 6題、シンポジウム 6題、ワークショップ 1題、公開セミナー 1題、緊急セミナー 1題、ランチョンセミナー 10題、ICD講習会 1題、International Symposium 1題
 一般演題 134題
 参加人数 508名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

- ①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

文京区シビックホール	(医師)	平成24年 1月25日、26日	100名
	(看護師)	平成24年 1月25日、26日	172名
	(薬剤師)	平成24年 1月25日、26日	103名
	(臨床検査技師)	平成24年 1月25日、26日	102名
神戸国際会議場メインホール	(医師)	平成24年 1月16日、17日	87名
	(看護師)	平成24年 1月16日、17日	161名
	(薬剤師)	平成24年 1月16日、17日	92名
	(臨床検査技師)	平成24年 1月16日、17日	91名

- ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

フォレスト仙台	(医師)	平成23年12月19日、20日	32名
	(看護師)	平成23年12月19日、20日	82名
	(薬剤師)	平成23年12月19日、20日	35名
	(臨床検査技師)	平成23年12月19日、20日	37名
有楽町朝日ホール	(医師)	平成24年 1月31日、2月1日	72名
	(看護師)	平成24年 1月31日、2月1日	168名
	(薬剤師)	平成24年 1月31日、2月1日	78名
	(臨床検査技師)	平成24年 1月31日、2月1日	81名
奈良県文化会館国際ホール	(医師)	平成23年12月15日、16日	62名
	(看護師)	平成23年12月15日、16日	153名
	(薬剤師)	平成23年12月15日、16日	73名
	(臨床検査技師)	平成23年12月15日、16日	73名
九州大学医学部百年講堂	(医師)	平成24年 1月19日、20日	43名
	(看護師)	平成24年 1月19日、20日	97名
	(薬剤師)	平成24年 1月19日、20日	46名
	(臨床検査技師)	平成24年 1月19日、20日	47名

- ③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

はまぎんホールヴィアマーレ	平成24年 1月12日、13日	164名
合 計		2251名

2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

院内感染対策のシステム化・連携	45分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	45分
医療機関における感染制御の基本	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
周術期感染対策	45分
血液媒介感染対策・職業感染対策	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
地域における感染対策のネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分

2. ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

院内感染対策のシステム化・連携	45分
-----------------	-----

院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	45分
医療機関における感染制御	45分
高齢者介護施設における感染制御	45分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	45分
抗菌薬の適正使用（薬剤の選択と投与計画）	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
血液媒介感染対策・職業感染対策	45分
周術期感染対策	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分

3. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

大規模施設における感染対策システムの構築	45分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
新興感染症への対応（パンデミックインフルエンザ対策を含め）	45分
大規模流行を起こす感染症への対応（アウトブレイク対応）	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
感染対策活動事例の紹介	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成23年 3月1日～平成23年 3月31日	質問件数	5件
平成23年 4月1日～平成24年 2月29日	質問件数	21件
e-consultation		
平成23年 4月1日～平成24年 2月29日	質問件数	7件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 37名

(敬称略)

新井 秀宜	池田麻穂子	和泉 賢一	植田 勝廣	岡田 隆文	金森 肇	川原 英夫
川村 宏大	倉井 華子	後藤 憲彦	小山 徹	坂部 茂俊	笹 秀典	佐藤 哲也
里村 厚司	杉野 圭史	鈴木 道雄	園田(申間) 尚子	詫間 隆博	竹下 望	田坂 定智
田里 大輔	塚田 訓久	富成伸次郎	林 三千雄	平間 崇	堀木 紀行	松橋 一彦
宮入 烈	村中 裕之	森野英里子	安野 哲彦	山岡 利守	山口 史博	山本 舜悟
吉野 友祐	渡邊 珠代					

2) 更新者 162名

3) 指導医 32名

4) 感染症専門医認定研修施設 198施設（ホームページ参照）

5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設	研修に3年を要する施設	57施設（ホームページ参照）
	研修に4年を要する施設	38施設（ホームページ参照）

6) 専門医制度規則・細則の改正

・規則の第6章の第17条「5. 所定の期日までに認定更新をしなかった時に以下を追記する。」の項、それに付随する細則6に以下のとおり追記（下線部）することとした。

第6章 専門医資格の喪失

第17条 専門医は次の事由により、その資格を喪失する。

1. 正当な理由を付して、専門医としての資格を辞退したとき。
2. 日本感染症学会会員の資格を喪失した時。
3. 基本領域学会の専門医（認定医）の資格を喪失した時。
4. 申請書類に虚偽が認められた時。
5. 所定の期日までに認定更新を申請しなかった時。

但し、留学や健康上、その他の事由により更新条件を満たせなかった場合は、その期間を除外する。詳細については細則6 その他に定める。

6. 専門医としてふさわしくない行為のあった者。

細則6 その他

- 1) 海外の感染症専門医資格を有するものは感染症専門医規則の第9条第2項と第4項を免除して受験資格を与える。
- 2) 以下の事由により、更新申請ができない場合はその理由、希望延期期間を記載した更新延期願いを審議会に申し出ること。

- (1) 留学・海外勤務
- (2) 病気療養
- (3) 出産・育児
- (4) 災害(被災・被災支援等)
- (5) その他(更新点数不足等)

- ・細則4 認定更新の要件で「本会以外の企画」の項「本会が指定した日本医学会加盟学会の年次講演会出席者」として、日本呼吸器学会を更新対象学会に加えることとした。

表記方法についても以下のとおり訂正した。

施行細則4. (下線部を追記)

本会以外の企画

本会が指定した日本医学会加盟学会 ¹⁾ の年次講演会出席者	3
同 筆頭演者	3
本会が指定した関連学会 ²⁾ の年次講演会出席者	3
同 筆頭演者	3
論文掲載筆頭著者 ³⁾	5
5年間感染症診療、学術活動に貢献したことの証明書 ⁴⁾	20

1) 二階建制の成立した基本領域学会：日本医学放射線学会、日本眼科学会、日本救急医学会、日本外科学会、日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本整形外科学会、日本精神神経学会、日本内科学会、日本脳神経外科学会、日本泌尿器科学会、日本皮膚科学会、日本病理学会、日本麻酔科学会、日本リハビリテーション学会、日本臨床検査医学会(※上記以外の基本領域学会については二階建制が成立した時点で随時追加)

関連学会：日本医学会総会、日本医真菌学会、日本ウイルス学会、日本衛生動物学会、日本化学療法学会、日本寄生虫学会、日本結核病学会、日本呼吸器学会、日本細菌学会、日本熱帯医学会、日本ハンセン病学会

2) 日本環境感染学会、日本小児感染症学会、日本臨床微生物学会

- ・「育成経過措置」としての連携研修施設・暫定指導医要綱の改正

当初、2013年(平成25年度)2月末を期限としたが、現在の研修施設の認定数、地域分布等を考慮すると継続が必要として、申請期限を2018年(平成30年)まで延長することとした。

育成経過措置要綱から抜粋

暫定指導医の申請

連携する認定施設の指導医の推薦書を添えて、専門医制度審議委員会に文書で申請する。

専門医制度審議委員会がこれを審査する。

新たな暫定指導医の認定申請は平成25年2月末を期限とする。



新たな暫定指導医の認定申請は平成30年2月末を期限とする。

8. ICD制度協議会 新規認定者 182名 更新者 350名

9. 提言「抗インフルエンザ薬の使用適応について(改訂版)」を作成した(ホームページ掲載)。

10. 「医療従事者の皆様へ：多剤耐性アシネトバクターおよびその感染症について」を作成した(ホームページ掲載)。

11. 東日本大震災に関連して以下を行った。

- ・「東日本大震災-地震・津波後に問題となる感染症-」(ホームページ掲載)。
- ・「東日本大震災被災地における麻しん予防についての提言」(ホームページ掲載)。
- ・日本記者クラブにおいて「3.11大震災-感染症について-」を行った。
- ・第85回総会学術講演会において緊急セミナー「災害と感染症対策」を行い、HPにて動画配信
- ・座談会「震災と感染症」(感染症学雑誌およびHPに掲載予定)。

12. 「専門医テキスト 第I部解説編」「専門医テキスト 第II部ケーススタディ編」を刊行した。

13. 座談会「腸管出血性大腸菌感染症の諸問題」を行った(感染症学雑誌およびHPに掲載)。

14. 札幌で開催されたInternational Union of Microbiological Societies 2011において5つのシンポジウムを共催した。

15. 厚生労働省医薬食品局審査管理課による「医薬品使用実態調査に関わる協力依頼」を受けてメトロニタゾール、リネゾリドに関する使用実態疫学調査に協力した。

庶務報告

1. 会員数 正会員：10,761名 賛助会員：20件 平成24年2月29日現在
除名については該当者無し
2. 第85回日本感染症学会総会は平成23年4月20日、ザ・プリンス パークタワー東京において行った。
3. 平成23年度評議員会は平成23年4月20日、ザ・プリンス パークタワー東京において行った。
4. 理事会は6回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は5回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は5回行った。
6. 学会賞選考委員会は2回行った。
7. 専門医審議会は1回行った。専門医試験委員会は5回行った。専門医テキスト委員会は1回行った。
8. ワクチン委員会は1回行った。
9. 感染症セミナーWGは4回行った。
10. JAID/JSC感染症治療ガイド2010（仮称）作成委員会は6回行った。
11. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会は8回行った。
12. 四学会理事長懇談会は1回行った。
13. 経理事務打合会は1回行った。